

経営資料

No.179 会社訪問

代表取締役社長 高杉 昌裕 氏



株式会社高杉製作所

会社プロフィール
 代表者：代表取締役社長 高杉 昌裕
 本社・工場：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 6-32-12
 TEL: 03-3802-4751 FAX: 03-3802-4754
 設立：1951年12月（昭和26年）
 資本金：2000万円
 従業員：14名
 事業内容：ジャーファーマンター、バイオリアクター、培養装置、
 振とう培養器、グローブボックス、乾燥器・恒温槽、環境試験器、
 カスタマイズ・特注製品装置
 その他汎用理化学機器の設計・製造
 URL：<https://www.takasugi-ss.co.jp/default/wordpress/>

聞き手：梅垣喜通（広報委員長）、岡田康弘（事務局長）、取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ(株)



ジャーファーマンター、グローブボックス等の理化学装置を
 お客様の要望に応じて、細やかに製造する「高杉製作所」

御社の事業内容や主力製品についてお聞かせください。

高杉 弊社は培養装置、グローブボックス、乾燥機などの研究装置を設計・製造する理化学機器メーカーです。

現在の主力商品は、ジャーファーマンターと言われる通気培養装置です。微生物や菌を培養したい時、そのままの環境では数日間かかってしまうので、それを速めるのに振とう機が使われる事が多く、扱うには経験値が必要になります。ジャーファーマンターは、そうした手間と時間がかかる培養を効率よく進め、振とう機を使う場合の2分の1~3分の1の時間で培養が行えます。このようにして、企業の研究開発や大学などの研究機関で、効率よく結果を得るのに寄与するジャーファーマンターは、温度・攪拌速度・通気量・pHその他の培養環境、また、コンパクトなミニサイズから大型の培養装置まで、お客様の要望にあわせて柔軟に対応し、製造しています。

会社を立ち上げた時は、「箱もの」と言われる乾燥機、恒温機、冷蔵庫などが中心でしたが、時代と共に変わるお客様のご要望に対応し、次第に取扱品も移っていきました。

現在の売上の割合は、大まかに培養装置関係で6割、グローブボックスが3割、乾燥器・恒温器その他が1割となっています。

どのような分野のお客様が多いのでしょうか。

高杉 食品関係、化学関係の企業の研究部門はじめ、様々です。お客様の規模は、大企業もあれば、いわゆるその下請け、孫請け、ベンチャーなどのお客様で多種多様です。従来から調味料や食品関連の分野のお客様は多くありましたが、2000年代頃からは、健康食品や化粧品の原料分析を行う会社からの引き合いが増えているように感じます。

そして培養装置やグローブボックスは、1回納品すると、10年から20年の長さで動く耐久性がありますので、納品する会社は毎年変わります。その第1号機の納品がお客様との付き合いの始まりという感じです。お客様の方も、長期間使うことを前提に今後のメンテナンスや買い替えの時のことを気にされます。そして2回目に発注がある時は、ほとんどの場合は使い勝手を良くしたいというカスタマイズのご要望になります。他のメーカーさんによっては、そうした細部の対応を行っていないところもあると聞きますが、弊社はそのご要望に丁寧にお応えしています。もちろん購入後のメンテナンスについても細やかに対応させていただいています。

また、今はカーボンニュートラル関連に国から補助金が出ていて、弊社製品もそこに関係するものなので、ニーズにしっかりと対応していく所存です。

経営資料

御社の売上の規模をお聞かせください。

高杉 売上ベースとして約3億円規模で推移しています。ただし、コロナ禍の時は納品が先延ばしになりましたので2億円前半に落ちてしました。また大きな案件が納品となった時は、たまたま売上が集中して5億円代になるなど、一時的な上振れ・下振れはあります。荒川区の中小製造業で売上が5億円ともなると目立ってしまうようです。(笑)

創業からこれまでの歩みをお聞かせください。

高杉 登記上は1951年12月に創業。会社設立は1952年（昭和27年）で、創業者は祖父の高杉好秋です。戦時中、祖父は海軍に物品を納める仕事をしていて聞いています。しかし会社設立の年に、51歳で急死してしまいました。先代の社長である父親の高杉都志夫は、当時大学生でしたが、祖父の急死に伴い、大学を中退せざるを得なくなり、この業界に入りました。祖父が亡くなって数年間は役員だった祖父の奥さんが社長をつとめ、それから父が社長に就任したと聞いています。

創業当初は、東京都北区王子でした。会社組織にする前の戦中戦後は、書類として証明するものがないのですが、創業時、神田に事業所があったということを伝え聞きました。そして、王子から近い文京区の根津が祖父と父の実家なので、去年父親が亡くなった折に役所から取った書類には、本籍は祖父が戦時中に疎開していた静岡となっていました。思い起こせば、祖父は静岡に疎開して、列車で闇市に買い出しに行っていたという話をしていました。

会社の方は、1995年に現在の荒川区東日暮里に工場を新設したのと同時に、本社も同じ場所に移転しています。創業の頃は、加熱滅菌器をいわゆる下請けとして製造し、納品していました。私は1961年生まれですが、大学生の時でも社業を色々手伝い、軽トラックに乗って取引先に集金にうかがっていました。

時代が移り変わって行くにつれ、世の中のニーズも変わり、従来の取引先の状況も変わっていききました。そうした中、川部工場長の発案で培養装置に力を入れるようになりました。

また、私の叔父にあたる役員からの提案でグローブボックスを製造するようになり、理化学機器の比重が高まってきました。両方とも発端は、お客様からのご要望があったからです。

私は大学を卒業後、最初は池田理化に入社しました。6年ほどお世話になり、30歳になるというタイミングで会社に

戻って来たのです。そして2004年から社長に就任して20年、現在に至っています。

今回、御社に勤務して60年以上の川部工場長にも同席いただきました。1960年代頃のお話をうかがえますか。

川部 私は高杉製作所に60年以上務めております。現在

培養装置

微生物の生育環境を自在に制御



10Lミニファーマンター 30Lファーマンター 2,000Lファーマンター

グローブボックス

大気に不安定や引火を嫌う物質研究の密閉環境



バジ式ガス循環精製装置付 卓上型真空引き式 ガス循環精製装置

乾燥機・恒温器

高温・低温・恒温、様々な用途に

カスタマイズ・特注制作

お気軽にご相談ください!



熱風循環式大型乾燥機



メタンガス発生計測

カスタマイズ・特注制作



グローブボックス



培養装置

経営資料



ステンレスのTIG溶接作業



大型装置操作盤の配線作業

も弊社の工場責任者です。先代の社長である前会長が去年お亡くなりになった年齢が89歳ですので、本当に長く勤めているなあと感じています。

私が勤め始めた60年代頃は、あまり働かない若い工員を先輩が鉄の棒を持って追っかけたり、失敗作になった製品が“飾られて”いて先輩が若い職人に「それを見て勉強しろ」と叱咤激励を飛ばしていました。今の時代にそういうことがあると問題になってしまいますが、荒々しくもありましたが、職人を育てる気概に満ちていました。

会社としては、その時々好調だった理化学メーカーの協力工場をしていた時もあります。しかし時代が変わる中で取引先が立ち行かなくなることも目の当たりにしてきました。それは高杉社長もご存知のことも多くあると思います。

簡単に言うと、そんな中で現状維持ではジリ貧になってしまいますので、自社製品の培養装置やグローブボックス等の開発、製造を行っていきました。

高杉 以前なら“箱もの”である乾燥器などは、過当競争になっていた事情がありました。それは製造する会社が多いために価格が下がる、そうするとなかなか先が見えてこないということなのです。

工場長の話にあったように、過去には色々な会社の協力工場だった時もありました。しかしながら時代の中でその産業の趨勢に左右されることがありました。私も工場長も、色々な方にお世話になり、また、肌で体感しながら学んできたような感じです。それは今も変わらず、日々学ぶことの連続だと思っております。

高杉社長がこれまで経営者として、印象に残った出来事があればお聞かせください。

高杉 仕事を通して色々な人と出会い、教えられ、仲を深めてきたという喜びを感じています。私が最初に入社した池田理化での先輩や当時の上司に多くの事を学びました。

そして現在に至るまでお付き合いをいただいています。ひとつ例を挙げると、若い頃に教えられたことは、私の先輩にあたる人の仕事を見習え、と言われたことがありました。その先輩は、お客様のもとに連日渋滞の中で通うことを惜しまず、休日でもお客様の引っ越しを手伝って、サービス残業をしたりしていました。どのような方にもそうした姿勢で接していらっやっして、今でも日本全国に及ぶ非常に広く深い交友関係をお持ちです。もちろん現在と世情が違うものの、そうした人と出会うことでの学びやありがたさは数多く感じてきました。

そして東京科学機器協会のSJCでも、私の出席率は良くなかったのですが、都心だけではなく日本全国の次期社長や社長の方々と様々なお話を聞くことが出来、ひとつひとつがとても有意義です。

今も私が営業を担当している取引先はいくつかあるわけですが、そうした人とのつながりの大切さ、喜び、仕事の責任感など色々なことを含め、ある意味、“やめられないな”と思う魅力があります。普通の会社勤めですと、60歳や65歳で仕事を離れて引退という方もいらっしゃいますし、今の時代は引き際が大切だという事が言われることもありますが、私としては社会人生活を出来るだけ長く送りたいと感じます。

高杉社長の人間味、それが信頼を広げてきたように感じます。御社の経営方針や経営理念をお聞かせください。

高杉 文章化しているものはありませんが、従業員に伝えているのは「理化学機器業界は研究開発の支援産業である」ということです。「弊社の製品が社会貢献になっている」ということを伝えています。

実は現在の従業員は、勤務して60年以上になる工場長の他は、私が採用しました。そして皆、経験や技術力を持つ途中入社です。私はそういう中で、「社会貢献をする仕事だ」という事は強く伝えていきます。そしてこの事は、実は私が大学を出て池田理化に入った時に、上司から教えられ、とても心に響いたことでもあります。

現在の課題や今後の事業目標をお聞かせください。

高杉 現在の課題は、次世代の育成と現状の維持です。弊社も高齢化が着実に進んでいるので欠員補充をしますが、熟練した1人の従業員が抜けた穴を、新たに採用した1人が埋められるというようには単純にいかないのが現実です。昭和の頃、職人が厳しく指導された事情は今に照ら

経営資料

好きな趣味や余暇に楽しんでいることはございますか。

高杉 私は昔から車の運転が好きです。仕事での日常運転だけではなく、長距離運転も好きです。なぜ車の運転が好きかと言うと、地方への日帰り納品や、冬場の困難な雪道運転のような時、日常とはまた違った環境で、一人になれる時間や空間が必要だと思ってきました。そこには、私だけの楽しみがあるからです。それは5～6時間運転する間に、音楽を聴くことが好きなのです。例えば、その日の気分で、今日はベートーヴェンの交響曲第3番・5番・6番・7番・9番を、マーラーだったら、ブルックナーだったら、という風に車内でひとり音楽を楽しんでいます。

また、先ほど話した「失敗から学ぶ」ということもあって、歴史が好きです。歴史は古代から戦前戦後の現代まで、色々な時代に興味があります。学術的なことは詳しくありませんが、歴史好きの私にとっては、歴史学者の諸先生方が出ているテレビ番組や歴史小説を楽しく読んでいます。NHK大河ドラマも楽しく観ています。

協会へのご意見やご要望などがあればお願いします。

高杉 JASIS展示会の形が発展的になっていけばいいなと思っています。弊社は色々な学会で展示をしますが、展示会スペースが少なくなっている状況があります。これは協会というより業界全体で考えていかなければいけないと思う事でもあります。また、JASISの会場は千葉・幕張ですが、例えばビッグサイトなど都内が会場になると、地方からの来場者もアクセスが良くなり、来場者が増えるように思います。そして、会場が都内だと、研究室の学生の方なども、自分の興味から足を運ぶ方も増えるのではないのでしょうか。その他、若い世代の方のアイディアなどから、展示会が違う業界と手を組んでより活気あるものになればと思っています。



勤続60年の川部工場長(左)と高杉社長(右)

し合わせると決して良いとされることばかりではありませんが、技量の面、技量を習得して仕事に反映してきた労働時間など、今とはかなり大きな差があります。このあたりは色々なジレンマを感じています。

事業目標は、今のお客様に対して取引関係を維持するために、メンテナンスや製品の改良などを始め、誠実に対応していくことです。今、一時的にカーボンニュートラル関連に出る国の補助金の影響が弊社の売上に繋がっているところはあると思いますが、それは続くものではありませんので、真摯に製品の向上に努めたいと思います。

働き方改革もあり、また指導なのかハラスメントなのか?意識の違いもあり、非常に悩ましいところですね。

高杉 若い人も、きちんとやる人は責任を持って仕事に取り組んでくれます。ただ、些細な事でも注意しなければいけない事柄がある時に、それを指摘するとハラスメントと捉えられてしまうのは、弊社に限らず、問題ではないかと思っています。

というのは残るのは製品です。そこには10年、20年という長い期間での信頼と責任が必要です。例えば、作ったものに何か不具合があった時に、それが実は従業員が自分流でやっていた事柄に起因していたことがあったとすると、責任の所在が曖昧になります。こういう事をより大きな視点から考えると、日本の国力の低下を生んでいる一因になってしまうのではないかと感じます。同時に、そういう指摘をする事に遠慮をしなければいけない今の日本の風潮は、もったいないように思います。

ここからは、高杉社長の個人的なことをお聞かせください。

座右の銘などはございますか。

高杉 大学の先生がよく言っていた言葉ですが、「失敗から学べ」という言葉を心に留めています。

私は幼少の頃まで、親が忙しいということなどがあって、小学校に入るまで読み書きが全く出来ませんでした。小学校に親が呼び出されて、何とか名前が書けるようになったという感じだったのです。そのように幼少期から生きることが失敗から始まっているような背景があり、大学も浪人して入りました。そういう時に「失敗から学べ」という言葉に出会いました。逆に『失敗は成功の元』と言いますが、失敗を反省して、失敗から本質を見つめることは「成功の因」だと思っています。